六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」

触れる喜び 教科書にも掲載

六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」は、触って・見て・鑑賞する美術館。作品に直接触れることのできる珍しい美術館として、中学校の美術教科書にも掲載されている。

通常、美術品の多くは触ることができないが、同館では作者の許可を得て実現。出来うる限りのメンテナンスを施しながら維持し、作品を展示している。

コロナ禍の間には美術館に来られない人のため、「さわるみゅーじあむ移動美術館車」という新たな試みを考案。各地の施設や学校、ホスピスに出向いていく計画だ。今後、クラウドファンディングで賛同者を募り、進めていくという。

一人でも多くの人が美術品に触れる喜びを体験できますように―。同館の挑戦は続く。☎078・894・2400

六甲山の上美術館「さわるミュージアム」は中学の美術教科書にも掲載された

神戸市観光いちご狩り園

摘みたてを心ゆくまで

神戸市の観光いちご狩り園が今年も本格オープンした。家族や友達、カップルで、甘くておいしい、摘みたてのいちごを心ゆくまで楽しもう。６月上旬まで開園予定。

同市北区は、二郎農園（有野町二郎）▽大沢農園（大沢町上大沢）▽長尾農園（長尾町上津）▽上淡河農園（淡河町中山）。西区は、神出農園（神出町小東野）▽細田農園（押部谷町細田／５月上旬～）。

入園料は、中学生以上2100円、小学生1600円、子ども（３歳以上）1300円。大人１人に対し３歳未満１人無料、２人目からは１人につき500円。35人以上の団体は１人につき100円引き。５月８日以降は変更となる。

事前予約制。開園時間や空き状況などの詳細は、神戸市観光園芸協会のホームページ（http://www.kobe-kanko-engei.jp/）で確認の上、各農園へ直接申し込む。

神戸市の観光イチゴ狩り園が本格オープン

ROKKONOMAD

食や音楽、トークの２日間

泊まれる森のシェアオフィス「ROKKONOMAD（ロコノマド）」。オープン３年目は、仕事の合間に楽しむアウトドアレジャー、デイキャンププランといったコンテンツに力をいれていく。

５月13、14日には２デイズイベント「HIKE&SWAP」を開催予定。六甲山上でトーク、フード、ミュージック、ワークショップなど盛りだくさんのプログラムを繰り広げる。両日とも午前11時～午後３時。入場無料、一部有料予約制のプログラムもある。

昨年実施した「NL/ROKKO」（森のポストを巡って本を読み、新しい働き方・暮らし方を考えるイベント）も継続。今年は「循環・サーキュラーエコノミー」をテーマに出展者やトークゲストを招く。「誰かに勧めたい本」を持ち寄り交換する試みも行う。

自然の中で人の思いが循環する体験をしよう。問い合わせはホームページ（https://rokkonomad.org）から。

六甲山上のシェアオフィス「ロコノマド」で昨年５月に開かれた２デイズイベントの様子

六甲大学

ROKKO-SAN DAIGAKU

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。　（毎月第４火曜日に掲載します）

春らんまん 新緑萌ゆる山笑う

根岸真理が案内　山の四季便り

ねぎし・まり　アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう！」など。

山笑う季節がやってきた。街から見上げる六甲の山肌は、色鮮やかな新緑に彩られ、見ているだけで心が浮き立つ。春の花々も次々と咲いて、華やかな季節。神戸市立森林植物園では、ツツジの仲間が見ごろを迎えていて、ドウダンツツジやヤマツツジ、シャクナゲも咲き始めている。

ところで、４月から始まったNHK連続テレビ小説「らんまん」の影響で、牧野富太郎に注目が集まっている。３月に、とある研修会で「全国の植物園がいっせいに牧野展を企画している」という話を聞いていたのだが、まさにその通り。六甲山でも、六甲高山植物園、ROKKO森の音ミュージアムが牧野博士にまつわる特別展「六甲山ボタニカルフェア」を共同開催。神戸市立森林植物園では、牧野博士ゆかりの植物を巡るガイドマップを作成、園内で実物を観察できるようになっている。

牧野博士が発見した新種の植物は600種余、命名は1500種もあるとか。博士ゆかりの植物で、六甲山で見られるものもいろいろある。今咲いているものでは、葉の裏が紫色の「シハイスミレ」など。

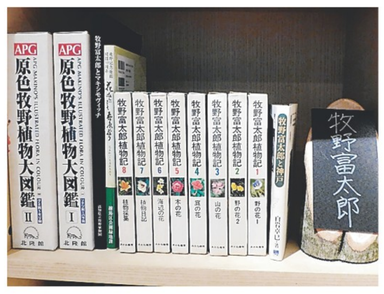
森林植物園では、「ラショウモンカズラ」が見ごろ、「アリマグミ」もそろそろ咲き始めている。もう少し季節が進むと「アリマウマノスズクサ」にも出会える。〝六甲ブルー〟のかれんな「ヒメアジサイ」も牧野博士のネーミングだ。

ちなみに、兵庫県の花「ノジギク」も牧野博士が命名。1884（明治17）年に高知県で発見され、兵庫県では1907年に六甲山で最初に見つかった。その翌年、姫路市の大塩町にある大群落を見た博士が、「日本一の大群落」と評したことがきっかけで兵庫県花となったというエピソードがある。

牧野富太郎ちなむ企画続々

▲グミ科の落葉小高木で、有馬で発見された標本を元に、牧野博士が学名をアリマグミと発表。発見者は有馬郡在住だった村上仙太郎氏

シソ科の多年草で、紫色の華やかなラショウモンカズラ。能「羅生門」で渡辺綱に切り落とされた鬼女の腕に見立てたネーミング



森林植物園の牧野富太郎博士の本を集めたコーナー

牧野博士が有馬温泉近くで発見したアリマウマノスズクサ。ミッキーの顔のような形の葉っぱで、虫を誘い込むために不思議な形状の花を咲かせる

最初に発見された標本の採取場所が摩耶山だったためマヤランと命名。現在摩耶山では確認されておらず、森林植物園のフラスコ内で栽培されている

六甲高山植物園、神戸・森林植物園など

総合学部

◆森林植物園の野鳥展　７月17日まで９～17時、神戸市立森林植物園・森林展示館２階（神鉄「北鈴蘭台」駅から無料送迎バス）。森林植物園にやってくる野鳥＝**写真**＝を季節ごとに紹介する。無料（別途入園料300円、小・中学生150円）。同園☎078・591・0253

◆６月のミントサロン「ウラヤマ散歩で健康に　街からすぐの六甲山を歩こう！」　６月４日11～12時、神戸・ハーバーランド　カルメニビル２階（ＪＲ「神戸」駅）。六甲山を歩く楽しみや効果について山岳ライターの根岸真理さんが話す。無料。先着30人。要予約。住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記し、メール（mintsalon@kobe-np.co.jp）かファクス（078・360・5514）で申し込む。六甲山大学事務局ミントサロン係☎078・362・2983

芸術学部

◆SIKIガーデンコンサート　５月７日～10月29日毎週日曜12時35分、13時35分、14時35分（各回20分間）、ROKKO森の音ミュージアム・SIKIガーデン内（六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「ミュージアム前」）。演奏家による生演奏＝**写真**＝や施設が所蔵する自動演奏楽器の音色、演奏体験などを楽しむ。無料（別途入館料中学生以上1500円、４歳～小学生750円）。雨天時は館内で実施する。同館☎078・891・1284

環境学部

◆須磨・淡路島の眺望を楽しもう　５月14日10時、山陽電鉄「須磨浦公園」駅集合。鉢伏山―旗振山―妙見堂署名所―山陽・ＪＲ須磨駅。海岸部に多い常緑樹の茂るコースを歩き、須磨浦山上公園の回転展望閣や明石海峡大橋や須磨海岸といった神戸らしい眺望＝**写真**＝を楽しむ。講師は六甲自然案内人の会メンバー。弁当、飲料水、雨具など持参。参加費300円。荒天中止。六甲山自然案内人の会☎080・5363・2620

催しの日程、内容などは変更される場合があります。お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/